

令和2年度 「ほっかいどう遺産WAON」 助成活動報告



2021年5月21日
NPO法人北海道遺産協議会



令和2年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計13件450万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	天塩川	流域市町村	松浦武四郎絵本製作実行委員会 (構成団体：士別市、名寄市、和寒町、剣淵町、幌加内町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、天塩町の11市町村及び上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局、旭川開発建設部、留萌開発建設部)	松浦武四郎絵本製作	500,000
2	空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	認定特定非営利活動法人アルテピアッツァびばい	美唄の炭山の記憶をつなぐ	440,000
3	空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	一般社団法人夕張市観光プロモーション	市内における炭鉱遺産の360度パノラマバーチャルリアリティの撮影及び制作等	440,000
4	五稜郭と箱館戦争の遺構	函館市など	一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン	モーツ・アート～五稜郭のお堀で新方式の舞台表現～	400,000
5	森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」	遠軽町	夢里塾(むりじゅく)	雨宮21号歴史パンフレット作成と雨宮21号図書発行準備	400,000
6	空知の炭鉱遺産関連施設と生活文化、北海道の集治監	空知地域、月形町、三笠市、標茶町、網走市、帯広市	三笠ジオパーク推進協議会(三笠市)	【イベント】～Withコロナ 秋のジオ×日本遺産「炭鉄港」×地域のお宝～ 「新発見！あなたの知らない空知を体験しよう！ブラックダイヤモンドルートを訪ねて」	400,000
7	空知の炭鉱関連施設と生活文化、屯田兵村と兵屋	空知地域 北海道各地	美唄市 教育委員会	美唄市「北海道遺産」周知事業	390,000
8	福山(松前)城と寺町、アイヌ文様	松前町 北海道各地	アイヌ文化再発見プロジェクトチーム	北前船の歴史を追体験～アイヌと和人が出会う一日づくり	380,000
9	小樽の鉄道遺産	小樽市	NPO法人北海道鉄道文化保存会	小樽・手宮から札幌まで鉄道開通140年記念事業 「小樽の鉄道遺産」魅力推進事業	330,000
10	野付半島と打瀬舟	別海町 標津町	野付半島ネイチャークラブ	野付半島の砂州植生(ハマニンニク群落等)の保護に関するPR活動	250,000
11	大友亀太郎の事績と大友堀遺構	札幌市	札幌村郷土記念館	第59号北海道遺産に選定されたことを周知するため看板作成	220,000
12	しかべ間歇泉	鹿部町	鹿部町	しかべ間歇泉北海道遺産標識柱設置事業	200,000
13	石狩川	流域市町村	石狩川下覧櫓	北海道遺産石狩川の体験・PR活動	150,000
ー	旭橋	旭川市	旭橋を語る会	旭橋を題材にした短編ドラマ制作	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により助成活動未実施。(助成金返納済)

1. 松浦武四郎絵本製作

■ 実施主体：松浦武四郎絵本製作実行委員会

(構成団体：士別市、名寄市、和寒町、剣淵町、幌加内町、下川町、美深町、音威子府村、中川町、天塩町の11市町村及び上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局、旭川開発建設部、留萌開発建設部)

■ 助成額：500,000円

ー活動内容ー

- 天塩川周辺地域が広域に連携して「北海道命名150周年と生誕200年」を平成30年度に迎えた松浦武四郎の偉業を振り返り、学び、次世代に伝えることを目的として絵本の制作を行った（594冊発行）。
- 絵本の内容は、松浦武四郎が天塩川を下りながら、アイヌと交流をした様子や、当時の天塩川周辺の自然と触れ合う様子が描かれている。
- 小学校中高学年をターゲットに制作しており、副読本等の教材として学校で活用できるような内容になっている。今後、副読本として活用いただけるよう、学校等と調整を図る。
- 絵本の制作にあたっては、作家を中川町在住の漫画家である「ハツ目 青児氏」に制作を依頼。
- 絵本の完成後は北海道内外に配本を行っており、各機関で活用いただくように依頼している。また、今後についても広くPRを図る。



遺産の名称：

「天塩川」（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシ（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

2. 美唄の炭山の記憶をつなぐ

- 実施主体：認定特定非営利活動法人アルテピアッツァびばい
- 実施団体URL：<https://www.artepiazza.jp/>
(安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄HP)
- 助成額：440,000円

ー活動内容ー

- 東美唄地区には竪坑櫓（炭鉱メモリアル森林公園）、番町グラウンド（我路ファミリー公園）、旧栄小学校（安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄）、東明駅・S Lがあり、かつては美唄鉄道で繋がっていたこの一帯を多くの方に訪れてもらい、当時の炭鉱、暮らし、文化、学びを感じてもらいたいが、公共交通機関が廃止しているため、自家用車で周遊してもらうための案内表示を作成し、安田侃彫刻美術館アルテピアッツァ美唄付近に設置する。
- 新型コロナウイルスの影響で道内をあらためて見直す温故知新の旅のスタイルが定着するという考えのもと、屋外施設をつなぐコースを提示することで炭鉱の記憶や先人の想いをつないでいく。



遺産の名称：
「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

3. 市内における炭鉱遺産の360度パノラマバーチャルリアリティの撮影及び制作等

■ 実施主体：一般社団法人夕張市観光プロモーション

■ 助成額：440,000円

ー活動内容ー

- 夕張市内の炭鉱遺産を360度パノラマで25地点を撮影。
- 「バーチャルリアリティ夕張360」をWEBサイトにアップ
- 夕張市内における炭鉱遺産の360°パノラマバーチャリティのパフレット設置



遺産の名称：

「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

4. モーツ・アート～五稜郭のお堀で新方式の舞台表現～

- 実施主体：一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパン
- 実施団体URL： <https://worldsmeet.org/>
(一般社団法人ワールズ・ミート・ジャパンHP)
- 助成額：400,000円

ー活動内容ー

- コロナ禍でもフィジカル・ディスタンス（身体的距離）に配慮し、五稜郭公園内のお堀を利用してボートの上で演奏し、その様子をオンラインで配信。公園に訪れた人も演奏を鑑賞した。
- 公園に訪れた人も視覚的にフィジカル・ディスタンスを理解できるように2m感覚で旗を約100本設置。営業自粛を余儀なくされた飲食店に対し、移動販売者による飲食の提供機会を創出し10店舗が参加。
- 7月18日から8月30日の開催期間中、14日間、出演者18組、22公演を実施。ボランティアスタッフには検温とマスクの着用を実施。
- また、NCVによる「はこだてアーティストライブ」の会場としてモーツ・アートの舞台表現を採用していただき、2組のアーティストが演奏し、インターネット配信された。
- 実施報告としてフォトアルバムを作成し、出演者や関係者に配布。



遺産の名称：

「五稜郭と箱館戦争の遺構」（函館市など）



箱館戦争は1868（明治元）年秋の旧幕府脱走軍の侵攻に始まり、翌年春の新政府軍の反撃により、五稜郭開城で終わった。戦いは道南一帯に及び遺跡や遺構が随所に見られる。榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が上陸した鷲ノ木、蝦夷島臨時政権の根城となった五稜郭や急ぎ造成された四稜郭、猛攻を受けた福山城、開陽丸が沈没した鷗島沖、新政府軍が上陸した乙部海岸、激闘の二股口、土方歳三が戦死した一本木関門など、戦いのすさまじさを偲ばせる。

5. 雨宮21号歴史パンフレット作成と雨宮21号図書発行準備

■ 実施主体：夢里塾（むりじゅく）

■ 助成額：400,000円

ー活動内容ー

- 「雨宮21号物語」というパンフレット（B5版カラー4ページ）を10,000部作成した。内容は、①雨宮21号の製造から用途廃止、保存に至った秘話や復活の経緯など、②いこいの森で動態保存されていて2018年に北海道遺産に選定された鶴居村営軌道のディーゼル機関車と殖民軌道・簡易軌道の歴史など。
- 雨宮21号に古くから関わってきた鉄道友の会役員や雨宮ファンから様々なエピソードや貴重な写真などをお寄せいただいた。さらに、森林鉄道に関する思い出話の募集を行った。これらを活かし、図書には雨宮21号の誕生から廃止・保存・復活までの歴史、関わってきた方々の思い出、森林鉄道の各種資料や座談会などの成果を網羅。図書発行は本年8～9月を予定している。



遺産の名称：

「森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」」（遠軽町）



「雨宮21号」は東京・雨宮製作所で製造された初の国産11トン機関車。1928（昭和3）年、丸瀬布ー武利意森林鉄道に配属され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に携わってきたが1958（昭和33）年に廃止。地元の強い要望で1976（昭和51）年、北見営林局から旧丸瀬布町に譲渡され、町は“森林公園いこいの森”を建設、機関車を走らせた。森林鉄道蒸気機関車の動態保存は全国で唯一のもの。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

6. 【イベント】～Withコロナ 秋のジオ×日本遺産「炭鉄港」×地域のお宝～ 「新発見！あなたの知らない空知を体験しよう！ブラックダイヤモンドルートを訪ねて」

- 実施主体：三笠ジオパーク推進協議会（三笠市）
- 実施団体URL： <https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/>
（三笠ジオパーク推進協議会HP）

■ 助成額：400,000円

ー活動内容ー

- 「地域のお宝」を地域住民が見直すことにより、新たなツーリズムや教育活動、観光などによる経済活動に結び付けることを目的としたイベントを計画、実施した。
- 今回のイベントでは特に空知地域における「地域のお宝活用」というテーマから、我々の足元にあるジオ（大地）からエコ（動植物）、そしてその上で生活している私たちの歴史や風土・伝統・慣習などの【繋がり】を新たな角度から楽しく伝えることを目的としたイベントを実施し、五感を通じて地域を丸ごと楽しむことを主目的として、各種体験・飲食ブース・特産品ブース・PRブース・ツアーなどを行った。



遺産の名称：

「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海盆踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

7. 美唄市「北海道遺産」周知事業

■ 実施主体：美唄市 教育委員会

■ 実施団体URL：

<http://www.city.bibai.hokkaido.jp/jyumin/bunya/kyoikuiinkai/>
(美唄市HP)

■ 助成額：390,000円

—活動内容—

●4110形式十輪連結タンク機関車2号の看板更新

道道美唄富良野線沿いに表示看板がありましたが、老朽化のためサビや塗装の剥離が続き、見えにくい状態にありましたが、本助成事業により新しくすることができた。

●美唄屯田兵屋の看板更新

美唄市教育委員会にて保存・管理しておりましたが、令和2年の6月に、強風のため表示看板が破損・倒壊していたところ、本助成事業により、新しくすることができた。



遺産の名称：

「屯田兵村と兵屋」(北海道各地)



屯田兵は1875（明治8）年の札幌郡琴似村に始まり、開拓と軍備のため、1899（明治32）年の士別、剣淵まで道内各地に37の兵村が置かれた。上湧別町には当時の区画の北兵村地区と南兵村地区が残る。札幌市琴似、士別市、厚岸町太田、根室市和田などに兵屋、札幌市新琴似、江別市野幌に中隊本部の建物が保存され、北見市の信善光寺には屯田兵人形75体が奉られている。

8. 北前船の歴史を追体験～アイヌと和人が出会う一日づくり

■ 実施主体：アイヌ文化再発見プロジェクトチーム

■ 助成額：380,000円

一活動内容一

- 福山（松前）城と寺町を主な舞台に、アイヌとシサムの対談形式で松前藩の時代に起きた歴史と出会いなおす、探す、ことを目指した動画を制作した。福山（松前）城、寺町、矢野旅館のアイヌ着物、アイヌ文様の切り絵などを通し、異なる文化が、今を生きるアイヌとシサムによって出会いなおし、共に歩む様子を収め、次年度以降の北海道遺産の保全と活用に向けた未来を想起させる内容とした。
- 動画は北海道遺産YouTubeの他、矢野旅館、松前観光協会等にて公開。



遺産の名称：
「アイヌ文様」
(北海道各地)



世界の各民族には、それぞれ独特の精神的意味合いを含めた「文様」がある。アイヌ文様の基本はモレウ（静か・曲がる：渦巻き文様の意）、アイウシ（とげ・つく：とげ文様の意）で、これらを組み合わせ、連続した線で結んでいく。その形状、図案や色彩は、印象深い美的価値を含んでおり、文化的にも秀逸なものとして近年、注目が高まっている。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

9. 小樽・手宮から札幌まで鉄道開通140年記念事業「小樽の鉄道遺産」魅力推進事業

■ 実施主体： NPO法人北海道鉄道文化保存会

■ 助成額： 330,000円

ー活動内容ー

- 「小樽の鉄道遺産って何？」 巡りバスツアー
一般市民対象に小樽の鉄道施設・遺構をバスで巡る
9月22日(祝) 参加者36名。(新型コロナウイルス対策を強化)
- 講演・シンポジウム「小樽の鉄道遺産は市民の誇り」開催
9月26日(土) 14:00から16:30 小樽経済センター4階ホール
講師：駒木定正氏、石川孝織氏、パネルディスカッション
パネラー：迫小樽市長 吉岡宏高氏、佐藤圭樹氏、
コーディネーター：高野宏康氏 参加者85名
- 北海道遺産「小樽の鉄道遺産」認定プレート制作、設置
旧手宮線跡（文学館・美術館前）に設置



遺産の名称：

「小樽の鉄道遺産」
(小樽市)



明治13年11月28日、小樽手宮一札幌間に、アメリカ人技師クロフォードの指導のもと、待望の鉄道が開通。2年後、幌内炭鉱に到達し、石炭の搬出が開始された。港一鉄道結節のまち小樽は急速に発展し、北海道の開発を先導するまちに成長。石炭から石油に、港も日本海から太平洋に移ったが、北海道の発展を支えた鉄道遺産は、国の重要文化財、鉄道記念物にも指定され、野外展示の約50両の車両を含め、鉄道技術の発展を示す貴重な近代遺産として保存されている。

10. 野付半島の砂州植生（ハマニンニク群落等）の保護に関するPR活動

- 実施主体：野付半島ネイチャークラブ
- 実施団体URL：<http://notsuke.jp/natureclub>
(野付半島ネイチャーセンターHP)
- 助成額：250,000円

一活動内容一

- 野付半島の砂州植生の重要性和冬鳥として渡来する小鳥たちを紹介するリーフレットを作成し観察会の資料とすると共に周辺の各学校に配布。
当初の計画では野付の様々な場所や季節を取り上げたフィールドガイド的なハンドブックの作成を計画していたが、そこまでの予算が調達できなかったことから将来的なハンドブック作成のもとにできるように、今回はその資料となるリーフレットを作成。
- 野付半島の砂州植生の重要性和冬鳥として渡来する小鳥たちを紹介する観察会
今回作成した砂州保護のリーフレットをテキストとして、野付半島先端部の砂州で観察会を実施。参加者は21名で、ここで越冬する小鳥の生息地としての重要性を考える観察会となった。



遺産の名称：

「野付半島と打瀬舟」
(別海町、標津町)



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

1 1. 第59号北海道遺産に選定されたことを周知するため看板作成

■ 実施主体：札幌村郷土記念館

■ 助成額：220,000円

一活動内容（概要）一

- 北海道遺産に選定されたことを多くの人々に周知していくために、選定理由、大友亀太郎の年譜、大友堀流域図等を記載した看板を記念館前庭に設置した。



遺産の名称：

「大友亀太郎の事績と大友堀遺構」（札幌市）



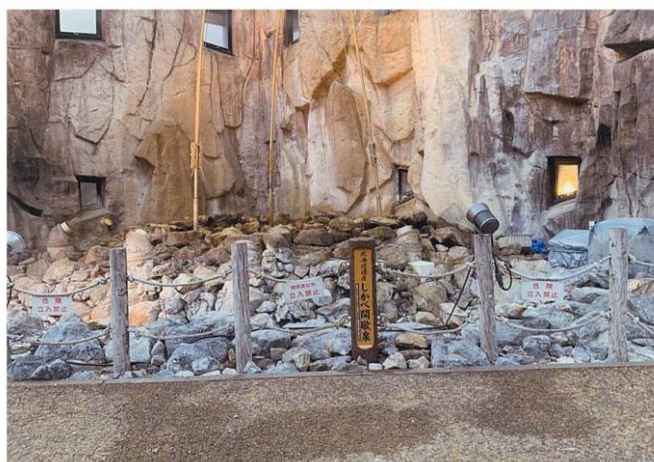
北海道開拓の中心である札幌の開基は、幕末の大友亀太郎の札幌村建設と大友堀の開削に始まる。大友は慶応2（1866）年に本州土木技術の後継者として大友堀と札幌村建設を主導した。堀は4 kmに及び、その一部は現創成川として残り、これは島義勇による札幌の東西の起点となった。大友は明治3（1870）年に札幌を去ったが、その事績は札幌市東区の札幌村郷土記念館内大友関連展示と文書資料で見られる。

1 2. しかべ間歇泉北海道遺産標識柱設置事業

- 実施主体：鹿部町
- 実施団体URL：<http://www.town.shikabe.lg.jp/>（鹿部町HP）
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- 北海道遺産に選定された「しかべ間歇泉」に訪れた利用者の多くは、間歇泉が入る構図での写真を撮影し、SNS等で投稿している。撮影者の記録に、またSNSで拡散されることで北海道遺産としての認識を広めるため、「北海道遺産しかべ間歇泉」の標識柱を設置。



遺産の名称：
「しかべ間歇泉」（鹿部町）



「しかべ間歇泉」は、大正13（1924）年、温泉の掘削中に偶然発見された。海の恵みを楽しみつつ湯治できる場として栄え、今日の“海と温泉のまち”を築いた。103度の高温の温泉が10分から15分間隔で約500ℓ、高さ約15mまで噴き上がる。発見されてからこれまで、衰退することなく一定の噴出間隔と温泉量を噴き上げている。代々、地域住民の手により大切に守り継いできた“地域の宝”は、鹿部の大地を潤し続ける。

1 3 . 北海道遺産石狩川の体験・PR活動

■ 実施主体：石狩川下覧櫓

■ 助成額：150,000円

ー活動内容ー

- 本年度は、残念ながら新型コロナウイルスの影響でやむなく事業を中止としたため、会員の結束を深めるためポロシャツを製作した。今後も自然環境への理解、流域の体験活動などを通じ、さらなる河川活動のPRを進めたい。



遺産の名称：

「石狩川」（流域市町村）



大雪山系を源とし、上川、空知、石狩の大平野を形成して日本海に注ぐ大河川。北海道開拓の歴史の中で、度重なる洪水と闘いながらも、交通・物資輸送の道として大きな役割を担い、また、鮭漁など北海道の歴史と文化が刻み込まれている母なる川。石狩川の地引き網漁は江戸時代に始まり、昭和期には遠方からも多くの見物客が訪れたほどである。